

9月20日～26日は「動物愛護週間」 犬の「老い」を考える

子どものようにかわいがってきた愛犬の老いは、気付きにくいものです。
高齢となった犬の習性を理解し、環境を整えることで、最期まで穏やかに寄り添える、幸せな暮らしを考えましょう。

問い合わせ先 環境課生活環境担当 ☎(584)1111(代) ☎(584)1147

愛犬の老いと向き合う

犬の寿命は平均15歳弱です。老いは確実に進んでいきます。

●身体の衰え

前脚が出にくくなったり、背が曲がったり、日常動作に影響が現れます。心肺機能も低下します。動くのがおっくうになり、散歩を嫌がることになります。

●脳の老化

人と同じように脳機能が低下し、表情がなくなることもあります。ストレスや不安を感じ、朝晩急にほえたり、うなったりします。そのような時は、自分の体や飼い主をなめる行動で落ち着こうとします。



飼い主ができること

●生活環境を整える

老いとともに飼い主の言うことをきかなくなることがあります。愛犬の意思を尊重し、クッションを敷くなどくつろげる生活環境をつくりましょう。夏の暑さも苦手なので、散歩の時間を工夫しましょう。

●近所への配慮

犬の鳴き声が近所の迷惑になることがあります。愛犬には適度な運動をさせ、窓を閉めるなどの防音対策に努め、地域でお互いが安心して暮らせるようマナーを守りましょう。



獣医師インタビュー



オリーブ動物病院
いわもと たくや
岩本 拓也 院長

人と同じようにペットの「かかりつけ病院」を持つことをお勧めします。獣医師がペットの受診歴や状態を把握しておく、異変があったとき、すぐに適切な診療ができますし、飼い主さんとの会話から、ペットとの日頃の接し方がイメージできます。

また、近所の犬の「コミュニティ」も貴重な情報源となります。

高齢犬の飼育で大切なことは、年齢に応じた食事や十分な睡眠などです。時々動画で普段の様子を記録しておくとな変化が分かります。ペットを触ってあげることが大切です。



▲診察中の岩本院長